

大洗町第6次総合計画に基づく令和5年度事業評価 政策別評価一覧

政策4

大洗の未来を担う人材を育てるまちづくり

(R6.7月末時点)

施策 No.	施策名	個別 施策	重点	具体的な取組み	評価	担当課	(参考) R4d	(参考) R3d
4-1	幼児期の教育・保育の 推進	4-1-1	○	保育環境の充実	B	こども課	B	B
		4-1-2		保幼少連携による幼児期の教育の質の向上	B	こども課	B	B
		4-1-3		学童保育内容の充実	B	こども課	B	B
		4-1-4	○	切れ目のない親と子への健康支援	B	こども課	B	B
		4-1-5	○	子育て世帯への支援体制の充実	B	こども課、住民課	B	B
		4-1-6		児童虐待防止の推進	B	こども課	B	B
4-2	知・徳・体が調和した特 色ある教育の推進	4-2-1		豊かな人間性を培う教育の推進	B	学校教育課	B	B
		4-2-2	○	確かな学力を身につける教育の推進	B	学校教育課	B	B
		4-2-3		健やかな心と体を育む教育の推進	B	学校教育課	B	B
		4-2-4		小中連携教育の推進	A	学校教育課	B	B
		4-2-5	○	社会の変化に対応した教育の推進	A	学校教育課	B	B
4-3	学校・家庭・地域の連携 と協働による安心して学 べる環境の整備	4-3-1	○	学校・家庭・地域との連携・協働	A	学校教育課	B	B
		4-3-2		信頼・尊敬される教員の育成	B	学校教育課	B	B
		4-3-3		学習環境の整備と学校組織運営の改善	B	学校教育課	B	B
		4-3-4	○	いじめ・不登校等への対策と安全確保	B	学校教育課	B	B
		4-3-5	○	すべての子どもたちへの学習機会の確保	B	学校教育課	B	B
4-4	生涯学習活動の推進	4-4-1	○	社会教育の推進	B	生涯学習課	B	B
		4-4-2	○	青少年の健全育成	B	生涯学習課	B	C
		4-4-3	○	スポーツ・レクリエーション活動の推進	B	生涯学習課	B	C
		4-4-4	○	指導者・団体の育成、強化	B	生涯学習課	B	C
		4-4-5	○	芸術文化活動の充実	B	生涯学習課	B	B
		4-4-6	○	文化団体の活動の推進・支援	B	生涯学習課	B	B
4-5	歴史資源の保存と活用	4-5-1	○	史跡磯浜古墳群の整備	B	生涯学習課	B	B
		4-5-2	○	大洗遺産の認定	B	生涯学習課	B	C
		4-5-3		文化財の保護活用	B	生涯学習課	B	B
		4-5-4	○	歴史文化の普及	B	生涯学習課	A	B

第6次大洗町総合計画 令和5年度事業評価シート

施策番号	施策名
4-1	幼児期の教育・保育の推進

担当課
こども課、住民課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)		現状値(令和5年度)		目標値 (令和6年)
				令和3年	令和4年	目標値	実績値	
KGI	-	町内の保育環境に対する満足度	44.3%	—	—	—	37.8%	50.0%
KGI	-	子育て世帯への支援体制の充実に対する満足度	65.1%	—	—	—	66.0%	70.0%
KGI	-	大洗町で、今後も子育てをしたいと思う方の割合	62.7%	70.3%	74.5%	80.0%	62.6%	90.0%
KPI	4-1-1	保育所等の待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
KPI	4-1-4	産後、退院してからの1ヵ月程度、助産師や保健師等からの指導ケアを十分に受けることができた方の割合	88%	97.6%	92.7%	95%	91.8%	95%
KPI	4-1-4	子どもに対して育てにくさを感じている方のうち、相談先を知っているなど何らかの解決方法を知っている方の割合	71%	79.2%	78.6%	90%	81.8%	90%
KPI	4-1-5	ひとり親世帯への相談会の開催	新規設定	0回/年	1回/年	2回/年	2回/年	3回/年
KPI	4-1-5	小児医療費自己負担	無料	無料	無料	無料	無料	無料

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—1—1	保育環境の充実	こども課	B
取組内容や 今後の方針	多様な保育ニーズが求められており、延長保育や一時保育、地域子育て支援拠点事業等の実施により保育環境の整備を図っている。また、令和4年度に引き続き、国の臨時交付金を活用した町内の保育施設に対する物価高騰対策補助事業として、給食費・光熱費の補助を行い、給食の質の維持と保育施設の負担軽減を図った。今後も、保育環境のあり方について関係機関と連携を取りながら、より一層の充実を図っていく。		
4—1—2	保幼小連携による幼児期の教育の質の向上	こども課	B
取組内容や 今後の方針	保育園、幼稚園、小学校による「相互保育(授業)参観」を実施し、保幼小での取り組みの共通理解を図った。今後も研修会等の開催を通じ、連携を図りながら、教育の質の向上に努めていく。		
4—1—3	学童保育内容の充実	こども課	B
取組内容や 今後の方針	民間学童保育施設も含め、連携を図りながら「待機児童ゼロ」を継続している。今後も、「待機児童ゼロ」を継続しながら、放課後子どもたちが楽しく、安心・安全な保育を受けられるよう努めていく。また、支援員の確保と、専門知識のある専門員の配置については、研修などの参加を通して人材育成に努めていく。		
4—1—4	切れ目のない親と子への健康支援	こども課	B
取組内容や 今後の方針	令和4年から子育て世代包括支援センターと母子保健業務がこども課に編入されたことにより、大洗町子育て世代包括支援センター＆子ども家庭総合支援拠点「ほっと」を拠点として、妊娠期からの切れ目のない支援が可能となった。相談先としての「ほっと」や、実施している支援事業の周知を図り、必要な人に必要な支援が届くように丁寧な説明に努めた。今後も、関係機関との連携を図りながら、問題を早期に把握し、適切な支援体制の推進を図っていく。		

(次のページへ続く)

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—1—5	子育て世帯への支援体制の充実	こども課、住民課	B
取組内容や 今後の方針	「親子ふれあいセンターきらきら」を拠点とし、関係団体と連携し、親同士の交流や情報交換の場となるようイベント等を開催した。「ひとり親世帯への相談会」は個別相談として2回開催したが、参加者が少なかったため、周知や実施方法等を検討し推進していく。 県の制度である医療費助成制度により、病院等受診時の自己負担の軽減を図っている。町では独自に県の対象外である中高生の外来まで範囲を拡大し、さらに18歳までの無料化を行っている。今後も安心して必要な時に必要な医療を受けられるように無料化の継続を維持していく。		
4—1—6	児童虐待防止の推進	こども課	B
取組内容や 今後の方針	児童虐待防止を図るため、令和4年から「子ども家庭総合支援拠点」を設置し、業務を行っている。また、子育て世代包括支援センター業務及び母子保健事業がこども課に編入されたことにより、日頃からの一体的な情報連携のもと、ハイリスク者のケアや多面的な対応が可能になった。また、要保護児童対策地域協議会において、関係各機関と情報を共有し連携を深め、より児童虐待防止に向けた取り組みを推進していく。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-1-1	委員:KGI 保育環境に対する満足度が低い、その理由は何か。 担当:KGI 保育環境に対する満足度については、町内の未就学児を持つ家庭を対象にしたアンケート結果からの数値だが、実際には満足度というよりも重要度に近い内容である。計画策定時に比べ、子育てするうえで、「保育環境の充実」が重要だと感じる方の割合が下がったものである。担当課の所感となるが、病児保育や延長保育などの保育サービスの整備が図られていることから、ある程度、「保育環境が充実している」と感じる方が増え、その結果として数値が減少したものと考えている。
4-1-3	委員:学童保育の支援員について、人数的には足りているのか。 担当:現状、大洗小と南小を合わせて20名の支援員がおり、通常時は足りているが、夏休み時期は役場職員も現場に出ることもあり、余裕はない状況。
4-1-4	委員:KPI 解決方法を知っている方の割合が改善した理由は。 担当:検診の際に相談を受けたり、相談者に寄り添う対応を心がけており、そういったところが改善に繋がっているものと考えている。
4-1-5	委員:ひとり親世帯について、父母関係ないとは思いますが、父子世帯にも参加してほしいと感じる。町内の母子世帯と父子世帯の割合は把握しているか。 担当:子ども課では把握していない。児童扶養手当の担当である住民課なら、何らかの数字を掴んでいるかもしれない。 担当:受給要件には所得制限があるため、町内すべての母子家庭・父子家庭の数は把握していない。あくまでも参考数値になると思うが、改めて報告する。 委員:所得制限の基準は。 担当:扶養の人数によっても変動するが、所得額で約300～400万円の所得制限となっている。 (審議会後補足) 住民課:児童扶養手当の受給者数(7/1時点)のうち、母子家庭世帯は125件、父子家庭世帯は10件となっている。

第6次大洗町総合計画 令和5年度事業評価シート

施策番号	施策名
4-2	知・徳・体が調和した特色ある教育の推進

担当課
学校教育課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)		現状値(令和5年度)		目標値 (令和6年)
				令和3年	令和4年	目標値	実績値	
KGI	-	学校が楽しいと感じる児童生徒の割合	小学校 96.5% 中学校 81.1% (令和元年度)	小 89.4% 中 82.5%	小 86.2% 中 87.2%	小 97.0% 中 85.0%	小 89.0% 中 84.0%	小 97.0% 中 85.0%
KGI	-	夢や目標に向かって努力している児童生徒の割合	小学校 88.0% 中学校 77.2% (令和元年度)	小 84.2% 中 75.4%	小 80.8% 中 68.2%	小 90.0% 中 80.0%	小 80.0% 中 60.5%	小 90.0% 中 80.0%
KPI	4-2-2	全国学力・学習状況調査標準化得点	全国平均以下	全国平均以下	中学校 (国・理) 全国平均以上	全国平均以上	中学校 (数学) 全国平均以上	全国平均以上
KPI	4-2-2	小学校で年間50冊、中学校で年間30冊以上本を読む児童生徒の割合	小学校 82.4% 中学校 5.1%	小 85.1% 中 4.1%	小 70.4% 中 3.5%	小 85.0% 中 7.0%	小 53.1% 中 3.2%	小 85.0% 中 10.0%
KPI	4-2-5	大洗町郷土テキスト「大洗道」スタンプラリー達成率	新規設定	25.0%	20.0%	40.0%	65.0%	50.0%

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—2—1	豊かな人間性を培う教育の推進	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	授業において「学び合い活動(アクティブラーニング)」を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、「相互理解」や「折り合いをつける」等の学習をと おして人間性の向上を図った。また、学校行事や外部人材を招いての学習活動では、 同学年や異学年、異年齢(多世代)等との交流を実施した。 今年度においても、地域人材や団体を活用して、多様な人との交流や体験活動の充実 を図りながら、児童生徒の豊かな人間性の育成を図る。		
4—2—2	確かな学力を身につける教育の推進	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	児童生徒一人ひとりへの対応ができるように、町採用の社会人 TT や特別支援員の活 用を充実させ、少人数指導(習熟度別学習等)及び個別指導(配慮を要する児童生徒、 学習や学校生活につまずきの見られる児童生徒等)を行った。 昨年度、電子黒板等の大型提示装置の整備が行われ、児童生徒の考え方の共有や動 画・図等を活用した学習など、ICT 機器を活用した分かりやすい授業の実施に努めた。 今後も ICT 機器を活用した授業の実践例の紹介や研修をとおして、教職員の授業力 向上に努める。		
4—2—3	健やかな心と体を育む教育の推進	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	県の「体育大好き推進事業(2年目)」の充実に努めた。加配教員(保健体育免許取得 者)の活用により、南小学校(拠点校)及び大洗小学校への授業参加を実施し、運動の 楽しさを味わわせるとともに各校の体力の向上に努めた。 薬物乱用防止教室やがん教育等では、養護教諭や外部講師を招いて、専門的な知識 とともに、より具体的な話を聞くことができた。		

(次のページへ続く)

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—2—4	小中連携教育の推進	学校教育課	A
取組内容や 今後の方針	教職員の指導力向上を踏まえた「小中合同研修会」や「相互授業(保育)参観」を実施し、保幼小中間での取組の共通理解を図った。今年度は、小学校の特別支援教育の参観や保育園・幼稚園の保育参観を実施したり、協議会を開催したりすることで保幼小中連携を行った。 児童生徒の連携においては、小学校 6 年生による中学校見学(部活動見学)や避難訓練時の小中合同引き渡し訓練等を実施した。		
4—2—5	社会の変化に対応した教育の推進	学校教育課	A
取組内容や 今後の方針	英語教育の推進において、「オンライン英会話」の本格導入を行った。ネイティブな英会話(発音)を聞いたり、自分の英語(会話)が伝わる嬉しさを感じたりすることができた。 また、各校2名の ALT(外国語指導助手)配置し、通常授業や学校生活の中でも、英語に触れる機会を増やすことができた。 また、町の郷土学習として、各学校において「大洗道」の活用推進や磯浜古墳群の見学を実施した。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-2-2	委員:教職員の授業力の向上とあるがどういった取り組みで効果があったか。 担当:具体的なこれといった取組みがあるわけではないが、県から ICT の活用事例などが共有された際に、各学校へも情報を共有するとともに、ICT の活用に関する研修会への参加促進などを行っている。今後、電子黒板の使い方に関する研修なども検討している。 委員:研修を受けた先生が学校で共有すれば、他の先生方にも伝わるし、そういった取り組みも良い流れに繋がるのではないかと思います。 担当:そういった取り組みもぜひ進めていきたい。 委員:KPI 本を読む児童生徒の割合について、説明では、朝の読書の時間を減らして自主学習に充てているとの話だった。ただ、読書の割合が減った割に、学力の伸びにはつながっていないと思うが、どう評価するか。 担当:学力の伸びについては、難しいところ。勉強が苦手な子の学力を上げるためには、個別に対応する必要もある。 委員:学力の山の話があったが、それは生活環境にも左右されるか。 担当:感覚としての話になるが、必ずしもそういうものではないと感じている。
4-2-4	委員:子どもたちだけでなく、先生方の連携に関する内容でもあると思うが、自己評価Aとした理由は。 担当:初めての取り組みとして、学校の先生たちが保育園・幼稚園の見学に行く事業を行った。先生たちから、初めて見る保育園・幼稚園の教育環境から学んだことも多かったとの声があったほか、逆に保育園・幼稚園の先生が学校を見学し、特に支援が必要な子どもたちへの対応について勉強になったとの声があり、そういったことを踏まえて自己評価を A とした。 委員:保育園幼稚園の先生と学校の先生たちの間での交流も生まれたか。 担当:これまではあまりなかった交流が生まれてきていると感じる。
4-2-5	委員:英語教育については、ALT の増員やオンライン英会話の充実など、町が特に力を入れていると感じ、A 評価で納得できる。

第6次大洗町総合計画 令和5年度事業評価シート

施策番号	施策名	担当課
4-3	学校・家庭・地域の連携と協働による安心して学べる環境の整備	学校教育課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)		現状値(令和5年度)		目標値 (令和6年)
				令和3年	令和4年	目標値	実績値	
KGI	-	安心して子供を育てられる環境が整っていると思う保護者の割合	89.0%	93.9%	92.0%	90.0%	90.8%	90.0%
KGI	-	既存組織の再編による学校運営協議会の設置	4校	0校	4校	4校	4校	4校
KPI	4-3-4	不登校出現率	小学校 0.74% 中学校 3.32%	小 0.45% 中 3.02%	小 2.5% 中 3.09%	小 2.0% 中 3.0%	小 1.8% 中 5.4%	小 0.67% 中 2.99%
KPI	4-3-4	いじめの解消率	100%	100%	83.0%	90.0%	70.2%	100%
KPI	4-3-5	端末を自宅学習に活用した児童生徒の割合	0%	89.0%	91.7%	93.0%	81.7%	100%

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—3—1	学校・家庭・地域との連携・協働	学校教育課	A
取組内容や 今後の方針	昨年度発足した「大洗うみ・まちコミュニティスクール」において、学校の課題や要望に対応した人材の活用および取組を実施した(学校の要望に応じた人材・団体の紹介等)。特に、南中学校の「総合的な学習の時間」では、コミュニティ・スクールを活用して、「South Café(サウス カフェ)」を開催し、生徒が地域に入っていく活動を実施することができた。また、南小学校では、茨城工業高等専門学校との連携により、プログラミング教室を実施することができた。そのほか、昨年に引き続き、授業参観を地域にも呼びかけ、学校教育活動の周知を行った。		
4—3—2	信頼・尊敬される教員の育成	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	今年度は、「学級経営充実サポート訪問」として、町教育委員会が担任をもつすべての教職員の授業参観と面談(年3回程度)を実施し、授業力向上と学級経営のサポートを行った。特に、新規採用職員や初めての異動経験者、中学校から小学校への異動者等の授業力のスキルアップや心のケアを実施した。		
4—3—3	学習環境の整備と学校組織運営の改善	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	「各校での安全点検(月1回)の実施」から、「学校での修繕及び学校教育課への修繕依頼」という体制の構築が整っており、迅速な対応につながっている。 令和 5 年度は、「大洗町公立学校施設長寿命化計画」に基づき、第一中学校の照明設備と南中学校の空調設備の改修工事を行った。今後も、長寿命化による財政負担の平準化及びライフサイクルコストの低減を図りながら、施設の適切な管理に努める。		

(次のページへ続く)

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—3—4	いじめ・不登校等への対策と安全確保	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	「学級経営充実サポート訪問」を実施し、学級担任一人一人の課題に即して、授業改善・学級経営改善のための指導助言(面談形式)を行い、生徒指導の充実に努めた。町教育センター所属の臨床心理士や相談員と一緒に訪問をすることで、配慮を必要とする児童生徒の観察や対応のアドバイスをもらうことができた。また、学校の要請に伴い、相談員を学校に派遣する「アウトリーチ型」の対応も実施し、教室に入れない児童生徒や配慮を要する児童生徒の対応を行った。 校内では、児童生徒に対して定期的にアンケート調査を実施した。また、悩みなどの相談を、タブレットを通して伝えられるような対応を行い、いじめ・不登校等の早期発見、早期対応に努めている。		
4—3—5	すべての子どもたちへの学習機会の確保	学校教育課	B
取組内容や 今後の方針	各校において、オンライン授業の体制整備は整っている(小1年は不可)。家庭学習での活用においては、調べ学習、授業の続きの実施(学習カードのデータ化)、AIドリル等、各学校や学年で取り組んできた。 今後は、発達段階や児童生徒の実態により、ICT の活用(AIドリルや紙のドリルの選択等)を適切に行い、自分に合った学習方法の選択ができる力の育成に努める。 不登校傾向の児童生徒に対しては、学校の空き教室を活用しての学習や教育センターの活用(児童生徒、保護者の相談等)の紹介等を行い、学習機会の確保を行った。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-3-2	委員:先生に対する対応が手厚いと感じる。A 評価としていない理由は。 担当:現状、担当にも余裕がない状況のため、もう少し効率よく実施できるようになれば A 評価を検討したい。
4-3-4	委員:不登校となっている子どものうち、長い場合はどの程度続いているのか。 担当:不登校が2年続いている児童も10名程度いる。 委員:いじめや不登校は親からすれば大問題。定期的な調査やアウトリーチ型の対応も実施するなど、取組内容については十分に評価できる。
4-3-5	委員:自宅でオンライン学習できる環境はすべての家庭で整備できているのか。 担当:通信環境がない場合は、学校で通信可能な端末を貸し出しているが、貸出実績は少ない。 委員:紙のドリルもまだ使っているのか。 担当:使っている。端末との併用しており、紙のドリルに二次元バーコードが付いていて、端末上でも同じ学習ができるようになっている。

第6次大洗町総合計画 令和5年度事業評価シート

施策番号	施策名	担当課
4-4	生涯学習活動の推進	生涯学習課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)		現状値(令和5年度)		目標値 (令和6年)
				令和3年	令和4年	目標値	実績値	
KGI	-	社会教育の推進に対する住民満足度	21.2%	-	-	-	-	42.0%
KGI	-	成人の週1日以上スポーツ実施率	45.4%	コロナ禍で未実施	28.6%	45.4%	47.5%	55.0%
KGI	-	芸術文化の振興に対する住民満足度	19.6%	-	-	-	-	40.0%
KPI	4-4-1	公民館講座受講者数(年間)	144人	126人	248人	250人	209人	250人
KPI	4-4-2	家庭教育に関する講演会への参加者	46人/年 (令和元年度)	50人/年	50人/年	60人/年	54人/年	60人/年
KPI	4-4-3	スポーツイベントの年間参加者数	4,000人	302人	2,101人	4,000人	2,596人	4,500人
KPI	4-4-4	プロスポーツチームとの交流イベント数	毎年度開催	3回/年	5回/年	5回/年	7回/年	3回/年
KPI	4-4-5	老若男女が堪能できる演目を企画する	2回/年	3回/年	3回/年	4回/年	4回/年	4回/年
KPI	4-4-6	体験講座等を開催し、文化団体への新規加入を促す	新規設定	0回	0回	1回/年	0回	毎年度開催

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—4—1	社会教育の推進	生涯学習課	B
取組内容や今後の方針	多様化する学習ニーズに応えるため公民館講座を実施し、学習の機会を提供した。また、自主サークルの情報の周知や学習の成果を発表する場として生涯学習フェスティバルを開催するなど、学習情報の提供や学習活動を支援した。読書活動の推進のため、県立図書館や県内公共図書館との遠隔地貸出サービスや相互貸借サービスを周知・活用をした。引き続き、町民の生涯にわたる学びを支援していく。		
4—4—2	青少年の健全育成	生涯学習課	B
取組内容や今後の方針	保護者同士が交流する場として家庭教育学級開設し、合同講演会では子育てや声かけについての講話を行い、良好な親子関係を築くヒントを得る機会となった。北海道洋上体験学習や海っ子・山っ子体験交流の様々な体験活動を通して青少年の育成を図った。引き続き、学校・家庭・地域等で連携し、次世代を担う人材の育成を図っていく。		
4—4—3	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	B
取組内容や今後の方針	令和5年度のスポーツイベントについては、新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、参加しやすい環境となった。しかしながら、イベントの参加については、それほど大きな増加も見られなかった数となっている。部活動の活動時間の制限等も考慮し、一部事業の見直しを行ったことも増加に繋がっていない要因と考える。令和6年度の目標値に向け、関係団体とさらに連携を取りながら、イベントの周知活動等もしっかり行いながら、町民のスポーツ実施率の向上に取り組んでいきたい。		
4—4—4	指導者・団体の育成、強化	生涯学習課	B
取組内容や今後の方針	令和5年度については、例年行われている、指導者講習会や団員勧誘の場であるスポーツ少年団フェスティバルを開催するとともに、新たな取組として、町内の幼稚園・保育所へ訪問し、園児に対し、団指導員のもとスポーツに触れ、興味関心を持っていただける場を提供するなど、団員増を目標に取り組んだところである。 また、プロスポーツ団体との交流できる場の提供は令和4年度より増加しており、引き続き誘致を行い、子供たちにスポーツへの憧れをもち、スポーツに興味をもってもらい更にはスポーツを好きになってもらえるような取り組みを今後も続けていきたい。		

(次のページへ続く)

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—4—5	芸術文化活動の充実	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	芸術鑑賞の集いについては、小学生全学年を対象にサイエンスマジックショーを実施し、昨年度に引き続き双方向的・体験型の演目が好評であった。令和 6 年度については、ヴァイオリンとピアノのクラシック音楽を計画している。 また、音楽祭についても昨年同様プロの音楽家を中心に幅広いジャンルのコンサートを開催し好評であったため今後も継続していく。 令和 5 年度から映画上映会を県内の映画配給会社との共同開催を実施することで、経費を抑えた映画上映会を実施しており、来年度も継続していく。		
4—4—6	文化団体の活動の推進・支援	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	生涯学習フェスティバルや芸術文化祭において、体験コーナーや発表、展示活動の実施により芸術文化協会の活動を周知するとともに、新規加入の促進活動を行った。 また、芸術文化協会会員の新規加入促進のため、生涯学習課主催によるサンドアート体験講座を企画したが、応募 0 件だったため、令和 6 年度については、実施時期や屋内で実施できる体験講座などを検討する。 幅広い町民が文化活動への興味関心を持てるように、保育園や幼稚園、小学校へ芸術文化協会の会員を講師派遣する「浜っ子アート体験講座事業」の取り組みを進めたが、令和 5 年度は応募 0 件だったため、令和 6 年度は更なる周知広報を図っていく。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-4-1	委員:大洗町には図書館はないが、財政規模からは妥当と思う。他市町村との連携や、スマホを活用した蔵書検索など、図書館が無いなりに頑張っていると感じる。
4-4-2	委員:家庭教育学級の講演会の参加者について、一般参加もあるか。 担当:家庭教育学級の講演会のため家庭教育学級生の参加となっているが、今年度は学級生以外にも広く周知したい。 委員:海っ子山っ子体験交流など、歴史ある事業はぜひ続けてほしい。
4-4-3	委員:コロナの影響は非常に大きかったものと思うが、できるところから頑張っていることが伝わった。大洗町では、昔は野球人口が多く、野球場も足りないぐらいだったが、今では町民のスポーツ人口は減っていると感じる。スポーツは芸術文化と並んで重要と考えるため、頑張してほしい。
4-4-4	委員:プロスポーツ団体との交流は今後もぜひ進めてほしい。今は部活動の外部指導者も必要となっており、新たな指導者の人材育成にも力を入れてほしい。
4-4-5	委員:映画上映会について、収益の配分などはどうなっているのか。 担当:収支について、歳出としては職員の人件費や委託業者への委託料を除くと年間で7,000 円のみとなっている。歳入については、共同開催でチケット代の10%が収入となり、約3万円程度が町の歳入となっている。収支で言えばマイナスにはなるが、これまでよりもマイナスの金額が小さくなるよう取り組んでいる。 委員:事業の目的は、町民の芸術文化活動の充実のためで間違いないか。 担当:その通り。目的に対し、できるだけ費用を抑えるため、映画上映による芸術文化活動を選択した。
4-4-6	委員:サンドアート体験講座とは。 担当:砂遊びで芸術作品を作るといった企画。子どもたちをターゲットにしていたが、猛暑の影響もあり、応募は0件だった。 委員:実施時期が悪いのかもしれない。対象は町内の子ども達だけか？ 担当:町内の保育園・幼稚園児から、小学生までとして募集した。 委員:取組内容を考えるとCかBか判断が難しいところだが、住民のニーズを捉え、例年のものに縛られない、適時適切な取組を見極める時期に来ているのかもしれない。

第6次大洗町総合計画 令和5年度事業評価シート

施策番号	施策名
4-5	歴史資源の保存と活用

担当課
生涯学習課

	施策	目標及び指標	基準値 (令和2年)	推移(年度末)		現状値(令和5年度)		目標値 (令和6年)
				令和3年	令和4年	目標値	実績値	
KGI	-	磯浜古墳群の国指定数量	3基	3基	3基	3基	3基	4基
KPI	4-5-1	史跡磯浜古墳群保存活用計画の策定	未策定	未策定	未策定	策定	策定	策定
KPI	4-5-2	大洗遺産の認定	1件	1件	1件	1件	1件	2件
KPI	4-5-2	大洗遺産「磯節」の広報	2件/年	2件/年	2件/年	2件/年	2件/年	4件/年
KPI	4-5-4	企画展・特別展入館者数(年間)	2,287人 (令和元年度)	1,596人	2,860人	2,522人	1,548人	2,600人
KPI	4-5-4	博物館入館者数(年間)	4,745人	7,340人	10,943人	7,186人	9,065人	8,000人

施策の内容ごとの取組と方向性及び自己評価(※A～D)			評価
4—5—1	史跡磯浜古墳群の整備	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	令和5年10月、保存活用計画の策定。令和6年3月、磯浜古墳群・磯浜海防陣屋跡の案内板・説明板・注意看板などの設置。令和6年3月、いばらき古墳旅まっぷ第2版印刷。史跡指定地 20 筆の内、5筆を公有化。Facebook・X『大洗町の歴史と文化』を通じた情報発信の継続。今後とも歴史資源の核として整備を進めていく。		
4—5—2	大洗遺産の認定	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	大洗遺産制度、及び遺産第1号の磯節について、町内外への戦略的な情報発信を進めるため、チラシやホームページに特設ページを設けて、周知につとめている。 今後は、Facebook・X『大洗町の歴史と文化』を通じた情報発信を通し、広報を拡大するとともに、第2号遺産の認定に向けて、取り組みを強めていく。		
4—5—3	文化財の保護活用	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	大洗町文化財調査報告書第 27 集『宮田遺跡』、及び同第 28 集『平成 29 年度町内遺跡調査報告書』の刊行。開発に先立つ試掘調査・発掘調査の実施。特に磯浜古墳群の保存活用計画策定を記念した第6回考古学シンポジウム『磯浜古墳群を未来に』を開催し、町内外、多くの参加者を得、計画の趣旨を伝える大切な機会となった。		
4—5—4	歴史文化の普及	生涯学習課	B
取組内容や 今後の方針	収蔵資料を活用した企画展を開催するとともに講演会や藤田東湖にゆかりのある場所をめぐる関連イベントを開催し、SNS 等で積極的に広報するなど、歴史文化の普及に努めた。今後は、町に縁のある詩人山村暮鳥の特別展を開催するなど、引き続き歴史文化の普及に資する取組を推進していく。		

審議内容(委員意見や質疑内容など)	
4-5-1	委員:計画の策定は大変な苦勞だったと思うが、ぜひ活性化に繋がる活用をしてほしい。
4-5-2	委員:磯節の広報2件について、どういった媒体で行ったのか。 担当:チラシの配布とホームページ掲載である。 委員:チラシがあることを知らなかった。周知が必要では。 担当:今後は、SNS等も活用し、更にPRしていきたい。 委員:認定件数を増やすことも大事だが、その後の広報・活用も重要だと思う。今後、更に広報にも力を入れてほしい。
4-5-3	委員:大洗町を理解するうえでも、町の歴史や過去の姿を学ぶことは重要。町の文化を後世に残していけるよう努めてほしい。
4-5-4	委員:企画展や特別展といったイベントは年に1回の実施か。 担当:その通り。 委員:入館料はどの程度か。また、展覧会開催時も上乗せなどはないのか。 担当:一般は1回 500円となっている。展覧会開催時については、条例により変更が可能となっているが、これまでは通常料金から変更したことはない。今年度実施する歌川広重の特別展では、初めて入館料を変更する見込み。内容と世間的な相場を踏まえ、700円とする予定。 委員:浮世絵は人気があるコンテンツなので、料金が上がっても人が入るのではないか。 担当:浮世絵愛好者のすそ野は広いと思われ、企画内容からも700円は高くはないものと考えている。 委員:昨年よりも入館者数は減ったかもしれないが、震災やコロナ禍の状況を知る立場からすれば、立派な入館者数だと感じる。入館者数は企画展によっても左右されると思うので、今後もぜひ博物館の活用と振興に力を入れてほしい。